

地域とともにある学校

魅力ある学校づくりを目指して

<校訓>

樹の如く伸びよ 星の如く輝け

<学校教育目標>

自律する人間 共創する人間 錬磨する人間

2019/7/22 (月) 発行

校長通信 NO31
北海道日高高等学校
町田英謙

1 学期期末考査の実施

6月27日(木)、28日(金)に本校で1学期期末考査が実施されました。現在、北海道の高等学校の殆どが2学期制もしくは2学期制を導入していますが、本校は産業学習の活動を考え、3学期制としております。

考査の目的として、日頃からの授業での学習効果の点検、生徒の学習活動を促して、生徒達の学力定着を目的とし、ひとり一人が真剣に臨んでくれました。

日高町事業所長会議(くるみ会)

6月27日(木)、日高町役場日高総合支所2階の大会議室において、第2回のくるみ会が開催されました。

日高地区の連携強化と課題共有のため、各事業所長が一堂に会して意見交換する会議です。

今回、日高町に異動職員等向け日高地区研修・親交会の開催を役場担当者が企画し、地域住民の活発な交流を図る施策として提案されました。また、雇用促進事業として、臨時職員等の地域内ネットワークについて意見交換をしましたが、人材が不足している事業所が多数あり、人材の確保が大きな課題としてあげられました。

日高町青少年問題協議会

7月5日(金)、門別総合町民センター大会議室において、今年度の日高町青少年問題協議会が開催されました。

各委員が辞令交付され、日高町長の大鷹千秋様より、今月は青少年の非行・被害防止に向け、「道民総ぐるみ運動強化月間」となっている。全国では青少年に係る事故や事件が発生し、尊い命を失う事故も発生していることから各委員の方々には、それぞれの立場で未然防止に向けた取組の充実を図っていただきたいと冒頭のご挨拶で述べられました。

その後、門別警察署長 田村様から現在の管内と日高町の状況について説明がありました。事業報告と事業計画について承認後、講演題「青少年を取り巻く現状と課題～道内の取り組みと実践例～」として、(財)北海道青少年育成協会 指導専門員 杉山 健氏にご講演を賜りました。

こもれび祭

7月12日(金)～14日(日)までの3日間、本校と町教委が合同で「第14回 こもれび祭」が開催されました。本校の在学生徒の約7割が道外から、約3割が北海道それぞれ遠隔地から保護者等がご来校され、生徒・保護者・産業学習と高校の教員、地域の方々が合同で素晴らしい時間を過ごす企画として実施しました。

本校は昨年度、70周年を迎えた歴史ある高校ですが、平成2年に三修制・産業学習制度が導入され、夜間定時制でありながら3年間で卒業できるシステムとなりました。加えて、日高町の市町村合併等のこともあり、今まで産業学習と高校が別々におこなっていた「学校祭」が統合され、現在の「こもれび祭」の実施方法となり、今年度で第14回となります。

現在、全校生徒は27名ですが、この度の学校祭に保護者等48名が参加していただきました。

12日(金)は、前日準備として屋外のテント・ステージ・椅子・テーブル・放送設備等の設置、各種イベントのリハーサルがおこなわれました。

13日(土)は、保護者や地域の方々に披露する「日高山岳太鼓」の練習をはじめ、各部門の確認等がおこなわれ、14:00より本校で「進路説明会」を実施しました。

保護者が本校にご来校いただく機会は、近隣の学校施設と違い負担が多いことから、学校祭と10月に開催される保護者研修会の年2回となります。

3年生はいよいよ進路活動が本格化します。今まで積み上げてきた進路希望と生徒自身の努力を保護者とともにマッチングして進路達成していくことが目標です。

ここ3年間、全国的に難関大学と言われる上級学校への進路達成を果たしている先輩方が多数いる中、自分の夢や希望を叶えるため、進路指導部長からの概略、各担任からの3者面談や個別面談で、今後の方向性を確かなものにすることができました。

17:00より開会式、日高教育委員会の武田啓嗣 教育長から開式の挨拶をいただき、交流会で全員でバーベキューを囲みながらステージイベントや生徒活動のスライドショーを観覧しながら充実した時間を過ごしました。

14日(日)は、一般開放となり、地域の沢山の方々にご来校いただき、模擬店・せせらぎ太鼓・餅つき・パフォーマンス大会・こもれび市・流しソーメンなどが実施され、地域の方々にも楽しんでいただけた学校祭でした。

夏季休業を前に

新年度が始まり、5月より新元号「令和」となり、早くも夏季休業前となりました。

7月9日(火)に1学期の成績会議が開催されましたが、各学年・教科が連携し合い、日頃からの生徒達の育成にご尽力いただき改めて感謝申し上げます。

基礎学力・発展的な学力の定着を図り、普段から生徒との対話を大切に、生徒もそれに応え、各学年4名の皆勤、そして沢山の精勤で学校に足を向けることが辛い状況もある中、学校全体が素晴らしい状況となっております。

こまかな生徒の問題は、どの学校でも発生する事案ではありますが、適正に対処できており、生徒達の成長していく姿が美しいと感じております。

さて、7月26日(金)から、25日間の夏季休業期間となりますが、生徒はそれぞれの地域へ帰省し、家庭に戻っての生活となります。

この夏休みを終え、ひとまわり大きくなった姿で8月20日(火)に再会できることを楽しみにしております。

教職員の皆様におかれましても、夏休みを利用して、親御さんや親戚との交流、普段の生活では体験できない活動や、先祖へのご挨拶等、ゆっくりとされて欲しいと思います。教育職員は、様々な素行を持った生徒の対応、保護者からの要望等に対応していくため、自分の時間を惜しんで向き合っていますが、自分では大丈夫と思っていても心身共に疲労は蓄積していると思います。知らず知らずに生活を継続していく事で、自分の身体や心が蝕まれることが多く、全国的に教員職員のメンタルヘルスが大きな問題となっています。『休めるときにしっかりと休む』と言うことは、大切なことではないかと考えます。

2学期の英気を養うためにも夏季休業期間にスケジュールを立てて有益なクールダウンを勧めますので、ゆっくり休養し、自分のエネルギーを蓄える研修期間としてください。